

金日成・金正日主義の基礎に関する若干の考察

オスカー・モレビー

スウェーデン・チュチェ思想研究会会長

金日成・金正日主義として知られるようになった革命理論は、偉大な指導者である金日成主席に始まった朝鮮民族の自力更生と自主のための闘争から生まれたものである。

1910年に日本が朝鮮を併合した後、朝鮮人民は厳しい弾圧を受け、資源を略奪された。日本の植民地化は、朝鮮の文化を消滅させ、朝鮮の豊かな資源を日本の産業のために利用することを目的としていた。朝鮮人は日本人を憎んで抵抗したが、その抵抗は指導力が弱く、分裂していた。このような状況の中で、金日成主席は14歳で家を出て鴨緑江を渡り、満州の朝鮮人抵抗運動に参加した。このようにして、朝鮮民族の闘争の新しい時代が始まり、金日成・金正日主義へと発展する理論が展開された。

朝鮮人民抵抗運動を団結させるために、金日成主席は1926年10月17日に「打倒帝国主義同盟」を設立した。偉大な指導者である金日成主席は、統一的な思想の必要性を感じ、朝鮮人民に反日と社会主義の思想を教育する必要があると考えていた。そこで、1926年の冬に、青年組織「新日」と「セナル」を立ち上げ、同名の新聞を創刊した。金日成主席はこう書いている。

「日本の悪党を粉碎し、国の独立を回復するためには、まず国を愛する大衆を団結させなければならない」

そのために偉大な指導者である金日成主席は、革命闘争を重視した。1927年、金日成は青年を革命的な力として集めるために「朝鮮共産主義青年同盟」を創立した。このほかにも、金日成主席が設立したいくつかの組織や新聞を通じて、それまで分裂していた朝鮮人民は、日本帝国主義への抵抗組織として団結するようになった。

金日成主席はこの数十年間の日本帝国主義との闘争の中で、チュチェ思想を創始し、人民を中心とする革命理論を打ち立てたのである。チュチェ思想は、世界における人間を、運命の主人であり、何でもできる存在であるとしている。金日成主席は人民大衆の革命的力に依拠することで、人民大衆が最大の敵を打ち負かすことができることを示した。1945年8月の日本占領軍に対する勝利は、金日成主席の指導力とその基礎となった理論的基盤が正しかったことを証明した。

人民を自らの運命の創造者であり、革命の主人であるとする見方は、金日成・金正日主義の基礎の一つである。親愛なる指導者、金正日総書記は画期的な著書『社会主義は科学である』の中でこう書いている。

「人民大衆は社会のすべてのものの主人である。それはすべてのものが人民大衆によって創造されるからである」

人民大衆は、自然と社会を変革する最大の創造力を持っている。個人の力と知恵は限られているが、人民大衆のそれは無限である。この世に全知全能の存在があるとすれば、それは人民大衆に他ならない。大衆は、その底知れぬ力と知恵で、社会のすべてを創造し、歴史を進め、革命を推進するのである」

日本帝国主義との戦いの中で、朝鮮人民は独立と自主的発展のために多大な犠牲を払ってきた。その結果、朝鮮人民は民族解放を勝ち取り、朝鮮民主主義人民共和国という新しい独自の社会主義社会が実現した。

しかし、米国の帝国主義者はすぐに朝鮮民主主義人民共和国を攻撃するようになり、朝鮮人民を制圧しようとした。祖国解放戦争において、金日成主席に率いられた朝鮮人民は、革命理論で武装した団結した人民が敗北することは不可能であることを示した。

ひたむきに団結して戦うためには、人民は正しい思想で武装し、党とその指導部と一体にならなければならない。これは金日成・金正日主義の基盤である。党は革命の主人として人民を信頼している。そして人民は、党が成し遂げた業績と理論的進歩の結果として、また社会建設における大衆の意思を形成し実現する能力の結果として、党と指導者を信頼しているのである。このようにして、人民の思想的理解と、党とその指導者が提示した政策の正しさの結果として、一枚岩のような一体感が生まれる。人民は革命の主人として、党と指導者と一心同体になって行動し、考える。人民の強さは、この団結から生まれるのである。

金正日総書記は「朝鮮民主主義人民共和国は無敵の力を持つチュチェ型社会主義国家である」という論文の中で、このような歴史的成果を次のように振り返っている。

祖国解放戦争におけるわが共和国の歴史的勝利は、わが国の無敵の強さ、わが国の社会体制の強さ、わが軍隊と人民の勝利への確信、彼らの不屈の闘志を明確に証明するものであった。また、どんな力も、自分の運命を自分の手でつかみ、党と指導者の下に固く団結している人民を征服することはできないことを示している。

日本とアメリカの帝国主義に対する勝利は、朝鮮民主主義人民共和国の人民が倒すことのできない存在であることを示した。また、国の自主と主権は、軍事力によって守ることができることも明らかになった。

親愛なる金正日総書記は、1964年に朝鮮労働党中央委員会での活動を開始した後、これらの洞察に基づいて先軍政策を展開するようになった。

先軍政策は、抑止力のある軍事力を作るため、また社会主義建設のための人民の闘争の一環として、軍事を第一に考える。これにより、朝鮮半島に平和で安定した状況を作り出すことができ、社会主義建設は大きく前進した。1990年代、帝国主義者が朝鮮への敵対を強めたとき、この軍事力は自主と主権を維持するために不可欠なものとなった。

先軍政策は核兵器の開発を通じて朝鮮をチュチェの難攻不落の砦にした。こうして先軍

政策はその目的を果たし、この成果の上に近代的な IT 技術と科学を駆使した経済発展の新時代が始まることになった。

朝鮮民主主義人民共和国は、偉大な指導者である金日成主席と親愛なる指導者である金正日総書記の指導により、現在の状況に適合し、正しい情勢認識に基づいてすべての逆境を偉大な勝利に変えることに成功した。

金日成・金正日主義は、人民を基礎にして自主と自治を擁護する独自の理論に発展した。自主性が確保されれば、人民はその創造力の自由な発揮が保証され、人民が革命の主人として自らの未来を築く人民中心の社会主義社会を建設することができる。だからこそ、金日成・金正日主義は、帝国主義との闘いにおけるは自主の時代に生きるすべての人々に呼びかけ、連帯しているのである。